

# 先の見えない避難先での暮らし

— 衝撃におびえながらの生活 —



①水道の供給が断絶し、給水器でしのぐ日々 ②避難先で食事の配給を受ける人々 ③支援物資の不足を呼び掛ける手作りの看板 ④全国からの支援物資であふれる避難所 ⑤両手に抱えきれないほどの物資を持ち避難所へと向かう職員たち ⑥炊き出しを求める人によってできた長蛇の列…時には1時間以上待つことも

避難所には多くの人々が避難し、大きな余震が起こるたびに恐怖と不安に包まれました。避難当初は電気や水道なども復旧しておらず、避難者は先行きの見えない毎日を過ごしました。最も多くの避難者が生活する町総合体育館では、炊き出しや入浴所、トイレに至るま

で、行列ができることは珍しくなく、日々当たり前にできていたことさえも困難なときが度々ありました。その日その日の避難所での暮らしをどうするかという思いは、避難している町民、避難所対応に当たった職員、ともに同じでした。また、自宅の庭先にテントを張ったり、車中で生活する人たちも思うように物資の調達ができないなど不便な暮らしを強いられ、夜は暗やみと余震におびえる日々を過ごしました。

【避難者数の推移(避難所)】

